

2020年11月17日(火)

HTB ノンフィクション「おっばい2つとってみた」

第58回ギャラクシー賞テレビ部門奨励賞を受賞

HTB 北海道テレビが制作、2020年5月9日(土)に放送した HTB ノンフィクション「おっばい2つとってみた～46歳両側乳がん～」が第58回(2020年度)ギャラクシー賞(上期)で奨励賞を受賞しました。受賞について、制作にあたった阿久津友紀ディレクターは、「素晴らしい賞をいただき、ありがとうございました。去年(2019年)の5月、乳がんと診断されたときのことは忘れられません。ずっと啓発活動をしていても防ぐことはできませんでした。健診の大切さは実感しましたが、これまでを振り返り、何が足りなかったのかを思い悩んだ瞬間でした。患者になった瞬間から押し寄せるさまざまな壁や悩みを一緒に乗り越えようとしてくれた家族と友人、病院で出会った患者のみなさん、番組やYouTube、ブログなどを見ることでつながってくれたみなさん、番組が出来上がるまで見守ってくれた社内みなさん、そしてテレメンタリーの系列チームのみなさんに心から感謝したいと思います。まだ私自身のがんと向き合いも続きます、病になることが許されない社会は終わりにしたい。さまざまなご縁を大切に、一人でも多くの方ががんと診断されたあとも生きやすい世の中になるように、自分にできることを進めていきたいと思います」とコメントしています。

同番組は、HTB 報道部のニュースデスクを担当する阿久ディレクターが同時両側性乳がんに罹患、「誰かの役に立てるかもしれない」との思いから患者としての自らにカメラを向け、がんの告知の瞬間や治療方法を巡る迷いや苦悩を描いたドキュメンタリーです。手術室にもカメラを入れ、術後のリハビリやその後の思いも丹念に映像に記録しました。ナレーションも自ら務め、放送後大きな反響をいただきました。2020年民間放送連盟賞番組部門テレビ報道番組優秀賞を受賞。また、教育コンテンツの国際コンクール「JAPAN PRIZE 2020」ではグランプリ日本賞ファイナリストに選出されるなど、国内外から高い評価を受けています。

*ギャラクシー賞は放送批評懇談会が日本の放送文化の質的な向上を願い、優秀番組・個人・団体を顕彰するために1963年に創設した日本を代表する番組コンクール。テレビ、ラジオ、CM、報道活動の4部門からなり、放送批評懇談会正会員の推薦を元に選出する志賀信夫賞、視聴者の参加により選ばれるマイベストTV賞が設けられている。

このリリースに関するお問い合わせ

HTB 編成局編成部 山崎

011-205-7666

メール: yuyamazaki@htb.co.jp